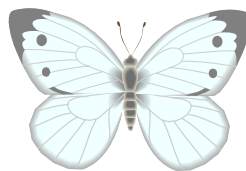
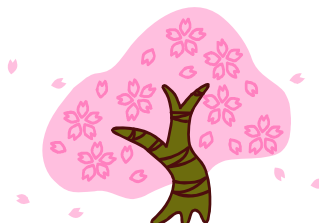
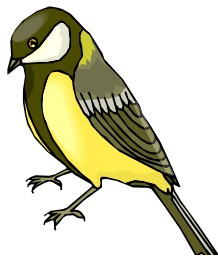


茅ヶ崎 自然の新聞



19年3月号(275号)

【編集・発行】

茅ヶ崎市文化資料館

〒253-0055

茅ヶ崎市中海岸2-2-18

TEL&FAX: 0467-85-1733

MAIL: shiryoukan@city.c

higasaki.kanagawa.jp

資料館へのメール



柳島花ごよみ

2006年11月14日(火)、快晴。吉田、齋藤の2名で調査を始める。11月ともなると花の種類が少なく、実をつけた樹木が目立つ。道沿いのトウネズミモチの木に、よりかかるようにしてつるを伸ばしている。ヒヨドリジョウゴを見つける。ナス科の植物でナスそっくりの白い小さな花を集散花序につけた愛らしい植物だ。花の少ない時期、嬉しくなる。

12月5日(火)、晴。いつものメンバーに、「ゆい」の会の石黒さんが参加して下さり、賑やかな調査になる。

キャンプ場の入り口に実をつけたキカラスウリが、先月よりやや大きくなったように見える。実の色はまだ緑色だ。寒くならなければ黄色にならないのだろうか。

キカラスウリは県内ほぼ全域に分布するがカラスウリより少なく、海岸や山ぞいの地域に多いそうである。

花の少ない時期に群れて咲くハキダメギク、ウシハコベの白い花が人目をひく。群れて咲く花ではないが、1年を通して必ず1~2株は黄色い花をつけているノゲシも元気に咲いていた。

(東海岸 齋藤溢子)



Nature Of Chigasaki In Brief

ちがさき自然情報

ケンボナシ

小出の里山公園には多くの人を訪れるが、ケンボナシがある事を知っている人は少ない。いつどこから来た種が発芽したのかわからない。久保山の木は戦後に発芽したものが大きくなり、隣の庭にあった分が枯れている。

小出の方では、ケンボンナシという。多分、手棒梨（テンボウナシ）がなまったものであろう。

高さは17m位になり、秋になると、小豆色をした固い小さな実が成る。冬の初め頃、この肉質の部分は、枝と共に地上に落ちる。肉柄を拾って食べると、甘みがありなしのような味がするので、このように言うのだろう。

ケンボナシを口に含むと梨の様な味がするので、このように言うのだろう。

秋の脱殻の頃、モミを干そうとすると、そこにケンボナシの実が落ちて、拾って捨てるのに苦労した経験が思い出される。

大きい木は芹沢の樋田氏の墓の側にあるが、未だ実は成らない。

里山公園のテラスの北側に、根本から数本に分岐したのがあるがまだ実はない。多分、これも戦前からあったようだが、知る人も少ないようなので見て欲しい。

最近、そこそこにある。小田原の図書館の北側の道路沿いに大きなケンボナシがあるので、図書館の人に聞いたところ、専門分野が違うので分からないと言う。また、鎌倉の明月院参道に小さなものもあるが、どうも藪の中ではっきり分からない。

平成18年11月15日の神奈川新

聞「植物再見」によると、「実は食べられないが、食べられる所は果柄であり、それが梨そっくりの味と香りがするのが不思議である。玄圃梨の字をあてる。クロウメモドキ科。」と書かれている。

どうか専門分野の人に、調べて欲しいと思います。

（若松町 樋田豊宏）

野鳥の大量発生

最近、野鳥の大量発生を見ることがある。

一つ目は、藤沢駅のムクドリである。数年前から見られ、大量のムクドリが、駅前の木をねぐらにしていることであるが、'06年の初めに一度数が激減した。たしかではないが、そのムクドリは、茅ヶ崎の一中通り沿いの家の木に移動したと思われる。今はその間を歩き来しているようだ。

二つ目は、藤沢駅前の商店街横の木に、30羽を超えるハクセキレイが繁殖していた（9月23日確認）。また、12月18日には、東海岸南で15羽程度のオナガを観察した。

以前、減る野鳥・増える野鳥の話を聞いたことがある。野生生物の減少が叫ばれている中での大量発生は、近年人間社会で話題になっている「格差社会」と似たものを感じさせられる。

（東海岸南 多紀 桂亮）



小出川の花ごよみと バードウォッチング

2月27日、この冬は暖冬というけれど、今朝の冷え込みは格別でした。それでも陽の明るさは春近しと感じ、心がはずみます。浜園橋から萩園橋の少し上流まで歩きました。

枯れ草の中、まず目に飛び込んできたのは、サファイヤの宝石を散りばめた様な花、オオイヌフグリです。なんと美しい青でしょう。宝石の様な硬いイメージはなく、やさしく人の心を高揚させる素敵なお花です。「厳しい寒さに負けず、小さくともこんなに美しい命を咲かせているこの花の様でありたい。」なんて、ちょっと乙女チックに感じてしまう老女なのです。セイヨウカラシナの背丈も伸びて、チラホラと黄色い花びらが見えはじめています。3月の中頃には、小出川の土手が黄色く染まることでしょう。ヒメオドリコソウも寒さに縮んでいる感じで咲いています。セイヨウタンポポは夏ほど背丈は伸びていませんが、冬にも咲いていて白い綿毛も作っています。春に咲くノゲシも、「他にも咲いている花があるかな？」と小さな芽出しの葉の中を覗き込むと、ありました！ロゼット状態のヘラ型の葉っぱの中に、隠れる様につぼみをつけているハルジオンです。寒くて頭を出したくなかったのでしょうかね。白い花のかたまりを見つけました。よく見ると、もう三味線のバチに似ている種ができていました。ナズナです。少し歩くと、また白い花があり、これもナズナかなと思いながらよく見たら、それはタネツケバナだったので。改めて葉の具合等を観ると、タネツケバナは根生葉も花茎の葉にも切れ込みがあるのに対し、ナズナは根生葉には切れ込みがあるが上部の花茎に付

く葉はヘラ状であることを確認して、その違いに納得しました。もちろん種は、ナズナは三味線のバチ型、タネツケバナは棒状の種がついていました。萩園橋の上流右岸の河津桜が見ごろで、散歩の人達も足を止めて眺めています。

私たちはタグリも観たくなり、萩園の畑の方まで足を伸ばしました。畑の脇にはノボロギクやオランダミミナグサ、コハコベ等が咲いていました。お目当てのタグリも萩園の畑の中に2羽確認しました。他にも沢山の鳥を見ることができました。カルガモ、コサギ、ハクセキレイ、ムクドリ、スズメ、アオジ、カワラヒワ、ダイサギ、コガモ、マガモ、ジョウビタキ、ヒバリ、ツグミ、タヒバリ、バン、ハシビロガモ。

沢山の花や鳥たちに出会えて、満足して帰る頃、近くの小学生が昼休みの時間を利用して、先生とバードウォッチングに来ていたところに出会いました。手に双眼鏡を持って一生けんめい観察している子もいれば、手のひらに大切にオオイヌフグリの花をひとひらのせている男の子、またある子は長いヨシの枯れ枝を持って男の子を追いかけまわしていました。近頃、自然の中でたわむれている子供達を見かけることが少なかったのも、とてもほほえましく思いました。

（円蔵 高橋静子）



アカガラシサギ

2006年12月17日(日)、寒川で1羽のアカガラシサギを見た。この日はタグリー斉調査日で、三翠会、会員メンバーの小野さん親子とグループになり、3人でタグリの姿を確認するために、周りの田んぼを歩いた。

人の歩く気配に驚いてか、田んぼの小さな用水路から、白い鳥がフワフワと飛び立った。最初はコサギだろうと思い、その鳥に関心がなかった。しかし何度か飛んだり、田の畦に降りた姿を見た一瞬、背中の中の羽の色が気になり、双眼鏡で確認すると、羽に薄紫色の色彩があり、コサギとは違うと感じた。

しばらくすると草の茂った水のある用水路の中で、餌を探しはじめた。首を長く伸ばして、一匹のザリガニを捕まえ、飲み込んだ。

小野さん親子と、「見たことのないサギだね。」と話しながら、何枚か写真を撮った。

鶴嶺東コミュニティセンターでタグリの数合わせがあり、その時に野鳥の会の会員でもある樋口さんに見てもらおうと、パソコンに入れた写真を一枚拡大して持っていった。

写真はピントがあっていなかったが、樋口さんに見てもらおうと、すぐに「これはアカガラシサギです。」と図鑑を広げて説明してくれた。

アカガラシサギはコウノトリ目サギ科で、中国東北・南部からインドシナ半島に至る地域で繁殖し、個体群はインドシナ半島、マレー半島、ボルネオ島に渡って過ごす。水田、湿地、湖沼、河川など水辺や湿った場所に生息して、2000年、2月に横浜市青葉区で確認されている。少しずつ日本でも観察記録が増えているようだ。

この日はタグリの確認はできなかったが、持っていた図鑑には載っていない珍しい野鳥に出会えて幸運な日でもあった。

(香川 目黒啓子)

椿の異変?

やはり、昨年から今年にかけては、結果的に暖冬と言ってよいでしょう。暖かいからと言って、喜んでばかりはいられません。以下の話も暖冬の結果と言っても良いのではないのでしょうか。

小生宅でも小さな椿の一本が、昨年の11月に満開となりました。同じ椿でも種類によって多少の違いがあるのは分かりますが、満開にはびっくりしました。他の2/3の椿はつぼみも小さく、咲く気配は見受けられませんでした。茅ヶ崎市内の氷室椿庭園も2~3月頃が椿の見頃だそうです。また、市立図書館より北の茅ヶ崎駅に向かって右側 NTT の先にある、某会社の社宅では住居の方々の手入れが良いのか、満開になるとすばらしい花が咲きます。

しかし、今年に入っても1月中旬頃では全く咲いたものを見る事は出来ません。

藤沢市辻堂の北、県立西高校の横から入る大庭台墓園に、年末の12月30日に平成18年最後の墓参りに行って来ました。入り口の両側はケヤキの並木と椿の大木がたくさん植えられていますが、ここでも椿の花の気配は殆んどありませんでした。

以上は、私の知るわずかな例ですが、皆様のお宅、あるいは茅ヶ崎市内ではどのような様子なのでしょう?お聞かせ戴けると有難いと思います。

(中海岸 星野利行)

ちょっとドジなカラス君

ゴミを散らかしたり、子育てシーズンには人を襲ったりと嫌われ者のイメージの強いカラスですが、先日茅ヶ崎と寒川の境あたりで私が出会ったちょっとドジなカラス君をご紹介します。



そのカラス君はコンビニの駐車場の車の上にはいました。屋根の上をちょこちょこ歩きまわって、あっちを見たり、こっちを見たりと楽しそうにしていました。しばらくすると、コンビニのドアが開いて人が出てきました。カラス君がいる車は、まさにドアの真前に止まっていたのです。さすがのカラス君も人から離れようと車の前の方へと急ぎ足で歩いていきました。足元を見ていなかったカラス君、フロントガラスが斜めに下がっていることに気づかず、滑り落ちそうになりました。あわてたカラス君は足をバタバタさせて、なんとか屋根の上に戻ろうともがいたのですが、ついに重力に負け、フロントガラスを滑り落ちていきました。いきなり、目の前にカラスが滑り落ちてきたので、運転席に乗っていた人もさすがに驚いた顔をしていました。結局、滑り落ちた後にやっと羽があることを思い出したのか、カラス君は飛び去っていきました。



横に止めた車の中にいたので、カラス君のまばたきまではっきり見えました。カラス君の慌てた顔がなんとも可愛く、カラスに対する見方も変わってしまいそうです。

（美住町 手嶋真理）

アライグマ

ベランダのビニルトタンの上に、アライグマが乗っていました。捕まえようと網を取りにいつているうちに、逃げられました。今年（2007）の正月4日朝の7時前、ベランダのビニルトタンの屋根で重いものを載せたようにきしむ音がしました。外に出て、屋根の上が見えるところまで行ってみると、太い縞模様の動物がいてアライグマに違いはないと思いました。



近所で飼っている人がいないか聞きましたが、いないようです。二階のベランダには泥の足跡と、寝ころんだような泥の後がついていました。体の汚

れから家の中できれいにして貰っている動物ではなさそうです。その後、納屋なども気をつけていますが、それらしき気配はありません。たまたま通りかかって、ねぐらにしたのでしょうか。

正月早々、捕獲にお手伝い頂いた方、大変お騒がせいたしました。ありがとうございました。

(文化資料館 池田 卓郎)

ホンビノスガイ

2006年9月、東海岸に打ち上げられた見慣れぬ貝を数日間にわたって収穫した。東京湾や横須賀市の佐島あたりに存在するウチムラサキという貝の仲間だと判断したが、収穫経験のない貝であったので、平塚博物館の漂着物を拾う会に持参した。湘南貝類同好会のメンバーで、子供の頃から貝類について長く勉強している福田さんに見ていただいた。同氏が時間をかけて資料確認をしたところ、ホンビノスガイという種類だと同定できた。この貝は北米原産種のようなが東京湾の三番瀬、千葉県に生息するとのことだった。

手持ちの貝のタールを洗剤でこすり落とそうと思ってスポンジを強く当てると微塵と砕けた。これは漂着した貝なのではないかと疑った。なぜならば米国では食用種の貝であるということだった。地引網などの際に、バーベキューのために持ち込んだ貝かなとも疑った。葉山しおさい博物館の池田館長にその話をしたところ、確かに同一種は東京湾の存在するが、茅ヶ崎の海岸に存在するには、まず江の島あたりに生息が確認されることがポイントではないだろうか、との指摘があった。

漂着物の研究の楽しさは収穫したものをいろいろな角度からなぜ東海岸に漂着したかを探求する心を持つことで

ある。つまらないと思われるものでも疑問を持つ、調べてみる、イマジネーションを働かす。これが漂着物の研究の醍醐味なのだ。



(菱沼海岸 井川洋介)

「特別展～里の鳥たち～」が終わって

3週間にわたって行なわれた特別展が2月25日に終わりました。当番として毎日では出ていませんでしたが、大勢の方々が来館してくださり、皆さんの質問にお答えしたり、鳥に対しての共通の思いを話し合ったり、楽しい日々でした。その間に感じた事、気づいた事など書いてみたいと思います。

- 中年以上のご夫婦連れの方々が多かったように思われます。
- 家の庭、通りがかりに鳥をみかけるが名前を知りたくて来た方々。真剣に展示してある中を探し当てていらっしかったです。
- 中海岸にお住まいの方。ご近所の樹木の多い広いお庭で、ヒヨドリくらいでおなかの赤い鳥を見かけ、なんという鳥だろうと、里山のジオラマの中から、アカハラにたどり着きました。
- 家の庭でメジロくらいの大きさで色のきれいな鳥を見たという方。私も一緒に図鑑を見たり、展示写真を見たり、小室先生に伺ったりしてソ

ウシチョウと判明。ソウシチョウは本来飼い鳥であったものが、最近野外に増えてきた鳥だとか・・・。

- メジロが家の松の木のところにも巣を作った話。また、オナガの巣にカラスが襲いかかり、オナガのツガイが攻撃しているところをみかけた話。
- メジロとウグイスのカービングをみて、しっかりとウグイス色を確認していったご婦人。
- おじいちゃんと男のお孫さんのカップル。市内の鳥の展示のところで、おじいちゃんがお孫さんにしきりに語りかけながら、スケッチをしていました。出来上がるとお孫さんが福祉会館寄りの机のところで色づけをしていました。祖父と孫の微笑ましい光景に胸うたれました。
- 幼稚園に通う女の子とお母さん。女の子は藁を使って丸い鳥の巣のようなものを作り、庭の木の上において、「鳥さんが来てくれないかなあ」と言って待っているという話をお母さんが私にしてくれました。お話によるとお子さんの通っている幼稚園(平塚)では、近くの川沿いに鳥を見に行ったり、木の実を集めに行ったりと自然観察をよくしているそうです。やはり普段の環境が違うことを感じました。
- 24日、見たことのあるお顔だなと思い、声をかけると二度目とのこと。「子供がもう一度見に行きたいと言うので、明日までなので急いで見に来ました。」お母さんがおっしゃっていました。うれしかったのでシジュウカラの巣の話をしなが、しばらくお二人と一緒に時を過ごしました。

以上、特に心に残ったことを書きましたが、皆さんがおっしゃるのは、

鳥が好む場所が少なくなったことを嘆いていらっしゃいました。

今回の特別展が、冬場の鳥がよく観察でき、鳥の多い時期に行なわれたことが良かったのではないかと思います。そして、自然環境に関心がある方々が多いということに非常にうれしく思いました。

会場に来てくださった方々には、自然ばかりでなく、民俗、考古の展示があることをご案内し、帰りがけに見ていただくことに努力しました。

民俗展示を見ながら、昔話をしている方、考古の展示を見ながら、茅ヶ崎にもこんな遺跡があったのかと驚かれる方、資料館のようなところがあつたのかと、おっしゃる方々がおられました。狭いながらも、茅ヶ崎の宝物がいっぱいあることを多くの方々に少しでも知っていただけた事、お当番をして良かったと心から思いました。

(東海岸 齋藤益子)

電線鳥パート2 ～市内では珍しいコゲラ～

野や山、海に出かけなくても身近かなところで野鳥の観察ができる場所があります。そんな場所はどこだろうかと思えますでしょうが、その身近な観察場所は電柱や電線、テレビ・アンテナです。このような工作物に止まる野鳥をあえて私は「電線鳥」ということにしています。

茅ヶ崎市内で写真(*)や目視で確認した電線鳥は39種類になります。

(あいうえお順)

アオサギ、*アオバズク、*イワツバメ、*イソヒヨドリ、ウグイス、ウミネコ、*エゾビタキ、*エナガ、*オナガ、*カワラヒワ、*カワウ、*キ

セキレイ、キレンジャク、*キジバト、*コゲラ、*コサギ、*コシアカツバメ、*コムクドリ、*スズメ、サメビタキ、*シジュウカラ、*ジョウビタキ♂・♀、*セグロセキレイ、*ツグミ、*ツバメ、*チョウゲンボウ、*トビ、*ドバト、*ハクセキレイ、*ハシブトガラス、*ハシボソガラス、ヒレンジャク、*ヒヨドリ、*ホオジロ、ホトトギス、*ムクドリ、*メジロ、*モズ♂・♀、*ユリカモメの39種です。

ホトトギスが鳴きながら電線に止まるのを目撃したのは、2004年5月下旬のことです。そこは、茅ヶ崎市矢畑と浜之郷境の電線でした。ヒヨドリのように斜めの格好で止まっているところを、購入したてのデジタルカメラで撮影した。数日後、初歩的ミスから貴重なものを消去してしまった。(地域住民もホトトギスの鳴き声を聞いている。)年月は異なるが、他にもあるレンジャク科2種とウグイスが電線に止まったことがある。あいにく、いつも持ち歩いている望遠付き一眼レフを持っていなかった故に撮影できず、未だに悔やむことがある。



電線にとまるコゲラ

電線鳥をいえば、今年2月、文化資料館の特別展「電線鳥コーナー」で「電線に止まるコゲラ」を見た有識者の方から、「市街地でコゲラが電線に止ま

ることは大変に珍しいです。」ということ聞き、そうなのだという気持ちになれたことを記録する次第です。

(文化資料館 小室明彦)

特別展を終えて

●特別展が終えて

色々な場面で不行き届きのある展示の中で、心温まる鳥に関する情報を沢山頂きました。その中には、観覧者から頂いた情報と私の知識とが結びつかないままで終わることもありました。また特別展を見て納得して帰られる人、また遠方から大学生が来てくれたりしました。シジュウカラの観察記録を聞いたり、コゲラが電線に止まるのは珍しいことなどが記憶に残っています。私の不在中に知人が観覧したりと、とにかく特別展「あんな鳥こんな鳥」では本当に大勢の方々の観覧があり、びっくりしたり、感謝したりの連続でした。心から御礼申し上げます。

●冠羽のある鳥が舞い降り

東海岸北にお住まいの方から、「造成地にキジバト大で冠のある鳥が舞い降りた(2007年2月10日頃)」ということや、「市立病院のベランダにキジバト大で冠羽がある鳥を4羽見た。」との情報を頂きました。タゲリの観察情報であれば、貴重な資料でしょう。さらなる新しい情報をお待ちします。

(文化資料館 小室明彦)

シジュウカラの巣立ち記録

季節的に良い時期なのでお届けいたします。

●3月20日~26日頃

庭に二羽のシジュウカラが来るようになり、楽しげに鳴いたり、飛び合っ

ている。

●3月27日～

青ゴケやタンポポの綿毛のような毛をくわえてきて、私の作った土器(写真)に巣づくりを始める。



●4月10日頃～

1羽ずつ出入りをしているような気がする。卵でも生んだのか、又は温めているのか。ちゃんと3番目の穴を中からふさいでいるのには、本当に感心。上の二つは空気穴として残したのか。

●4月27日～

ヒナがかえった。小さな鳴き声は確かに聞こえる。無事に育つことを願う。日中には庭に椅子を出して新聞を読んだり、お茶をしたり、ネコやヘビの見張りをする。

●5月10日

ヒナの鳴き声が一段と大きくなり、育っていることがわかる。親鳥が捕ってくる虫も段々と大きくなる。巣の中の糞をくわえては庭に落とす。私や家族が巣の近くにいても、親鳥は気にかけることもなく餌の虫をせっせと運んでは巣に出入りしている。

●5月17日

朝5時、庭が騒がしいので雨戸をあげて外に出てみると、なんとヒナの巣立ちのときであった。すぐにカメラで撮る。まさに出るところ(同写真、土器の口元から身を乗り出す)。そして巣立ち。



N・Tさんが、十年ほど前に日本酒の瓶を原型に制作した一升瓶風の土器を庭におき、風化した土器がシジュウカラの愛の巣となった記録である。4羽のヒナを無事に送り出した庭の自然を満喫したようですが、出入りに都合の良い穴だったようです。シジュウカラは巣作りに穴の開いたいろいろなものをよく利用する野鳥です。適度の太さのタケ筒、ブロックの割れ目などにも巣づくりに利用します。

(文化資料館 小室明彦)

文化資料館のウグイス初鳴き

2007年2月12日、朝9時前、福祉会館と文化資料館の間にある松の木で、じょうずにホーホケキョと2、3度鳴いていました。そして、東の方に飛んでいきました。



(文化資料館 池田卓郎)

モンシロチョウが来ました!

「3月3日(土)東海岸北の自宅の庭にて、モンシロチョウを見ました。」と東海岸北の小川様から資料館にお電話をいただきました。ありがとうございました。

同日、資料館の北側に池に、「カエルのたまごがあるよ!」と小学生の男の

子たちが教えに来てくれました。



資料館ビオトープにて

資料館の玄関横の池でも、池の主となっているアズマヒキガエルが水から顔だけ出してぷかぷか浮きながら、日向ぼっこをしていました。今年は春が来るのがはやいですね。



アズマヒキガエル



顔を出しているアズマヒキガエル

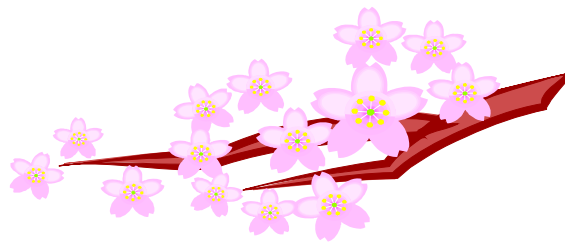
（文化資料館）

茅ヶ崎・中海岸の河津桜

文化資料館の隣のお宅に河津桜が植えてあり、例年ソメイヨシノより2週間ほど早く咲きます。今年は2月22

日に満開でした。本家の伊豆の河津でも2月中旬にほぼ満開というテレビのニュースでした。

（文化資料館 池田卓郎）



国立国会図書館と 東京都立大学牧野標本館

この度、神奈川県植物誌調査会から、筆者の報文選集が発行されることになった。筆者は満州から帰国後7～8回も引越しをしているので、古い報文はなかなか探し出せないでいた。

最初のころのものは、ロシア語の語学雑誌に発表している。そこで東京外語大学を卒業し、卒業論文に“ロシアの文学のあらわれる植物名”を研究された杵淵久美さんをお願いをした。家事や育児で大変お忙しいところをあちこち問い合わせさせて国立国会図書館でみつけて下さった。それが「砂漠の地固め」(『「ロシア語」誌』1951)である。もう一つの報文は「『林業のロシア語』に寄せて」(『「ロシア語」誌』1972)で、障害者の寮母をしている安藤秀子さんが探して下さいました。

次に、筆者が旅順中学校在学中や満鉄中央試験所(大連)に勤務している時に採集したベニガクスミレとシロバナスミレの標本が、東京都立大学牧野標本館に保存されているはずであった。これらの標本は以前平和学園中学・高校に勤務していた時、牧野標本館の小林純子先生にお願いして、その標本を貸し出して頂いた事がある。そこで三輪徳子さんと安藤秀子さんが、ベニガ

クスミシとシロスマシの標本をそれぞれ採って写真を撮ってきて下さった。

国立国会図書館や牧野標本館は、普段あまりかわりがないと思うが、図書館や標本館は何か研究したい時には、その資料や文献を探し出すことが出来る大変大切な施設だと思われる。

三輪さんが牧野標本館にいらっしゃった時、標本館の菅原敬先生が、同館に以前勤務されていた小林純子先生と竹内亮先生とのかかわりがわからなかったが、今度の事ではっきりわかったと仰言ったという。菅原先生や横須賀市博物館の大森雄治先生は小林純子先生の教え子である。筆者と竹内亮先生の関係は以前にも書いた事があるが、在満中、筆者が採ったスマシの標本を見て、そのスマシの同定を下された。また先生は、終戦時の大混乱の中でこれらの標本を持って避難され、帰国の時も持ち帰り牧野標本館に寄贈された。その後はボランティアで牧野標本館に保存されているスマシ科の標本を同定された。また我が国の植物生態学の先駆者でもあり、『植物利用環境測定法』(羊賢堂)を出版されている。

(藤沢市藤が丘 小原 敬)

特別展「ちがさきの野鳥と自然」を終えて

平成16(2004)年から、文化資料館の資料整理ボランティアの方々の市内の野鳥分布調査も去年の12月には23回を数えていました。

3年間、暑い日も寒い日も、市内の様々な地域を、ボランティアの皆さんと調査した成果をなんとか形にしたいと思い、今回の特別展を企画しました。

文化資料館は、開館して今年で36年目を迎えます。照明やケースなどは、残念ながら、新しい展示方法や方法論で構成された他の博物館園に比べると見劣りしてしまうところは否めません。

しかしながら、調査、収集資料の整理、展示の企画・構成・準備、そして開催中のガイドといった、博物館活動のあらゆるレベルに、市民の資料整理ボランティアの方が参加し、協力して行えたことは、地域に根付いた博物館活動の実践であると感じています。

参加したボランティアの皆さんの熱意が伝わったのか、21日という短い会期にも関わらず1,963人のお客様が来館されました。おかげさまで今回の特別展は、当館開館以来最高の来館者数を記録することが出来ました。また年間の来館者数も過去最高を記録することが予想されます。

全国で多くの博物館園が転換期を迎えております。当館はまちの宝ものを調べて、集めて、大切に保存して、そして展示するというかたちで、茅ヶ崎の素晴らしさを知るきっかけ作りになればと、社会教育という観点でこれまで活動に取り組んでまいりました。今後も、市民の皆さんと一緒に、皆さんが楽しいと思う博物館活動を協力して展開していきたいと考えております。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



(文化資料館 須藤)

お知らせ

●「茅ヶ崎自然に親しむ会」

『「全国名水百選」洒水の滝を訪ねる』

日時：4月15日(日)

『厚木・八菅山のスタジイ林を訪ねる』

日時：5月20日(日)

問い合わせは、

安井利子(52-3856)まで

●「清水谷を愛する会」

日時：4月1日(日)

9時30分～15時

集合場所：市民の森駐車場(堤)

問い合わせは、

田部許子(51-2955)まで

●「柳谷の自然に学ぶ会」

『谷戸の木をみよう』

日時：4月22日(日)

『初夏の谷戸をみよう』

日時：5月27日(日)

集合場所：県立茅ヶ崎里山公園内

風のテラス、午前10時

問い合わせは、

野田晴美(51-8489)まで

●「駒寄川水と緑と風の会」

『清水谷の桜を見よう』(自転車移動)

日時：4月1日(日)

13時00分

集合：民俗資料館(旧和田家)

問い合わせは、

池田尚子(52-8919)まで

●「三翠会」

三翠会では、市内の川や水辺の生きもの調査やタゲリをはじめとする野鳥観察、お米(タゲリ米)づくりのお手伝いなどに取り組んでいます。ご協力いただける方は、下記までご連絡下さい。

事務局：河村まき子(87-8313)

記事募集!

『茅ヶ崎自然の新聞』では、みなさまからの投稿お待ちしております。メール、FAX、手紙でOKです。

FAX：0467-85-1733

メールアドレス：

shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp

★次号の原稿の締め切りは、2007年4月7日(土)までをお願いいたします。

平成19年度 文化資料館の事業予定

平成19年度の文化資料館の自然関係の事業予定を案内いたします。

※ 予定は、都合により変更する場合がございますのでご了承ください。

● 2007年7月21日(土)～22日
「第21回 夏休み自然教室」

● 2007年10月27日(土)
「秋の自然観察会～初秋の柳谷を歩く」(仮)

● 2008年1月19日(土)
冬の自然観察会「野鳥観察会～小出川流域を歩く」(仮)

● 2008年3月8日(土)
春の市外観察会「平塚市吉沢を訪ねる」

● 市内の自然調査
今年度から市内の社寺林の調査を、3年～5年かけて行う予定です。樹木をはじめとした動植物の生息状況を、昭和48年に神奈川県が行った調査と比較しながら行います。(月1回、金曜日に実施予定。ご興味のある方は文化資料館までご連絡下さい。)

※ 調査以外は、文化資料館と活動する会(自然部会)と協力して開催します。